モロッコ出張報告

佐藤健太郎

行き先：テトワン（モロッコ）

用務先：ダーウード図書館

目的：同図書館所蔵史資料のデジタル化作業

期間：2005 年 7 月 26 日～8 月 7 日

モロッコにおける史資料保存事業のため，7 月末から 8 月初めにかけて 13 日間の日程でモロッコのテトワンへ出張をおこなった。今回の出張の目的は，昨年秋に協力協定を締結したダーウード図書館において史資料デジタル化事業を立ち上げることである。

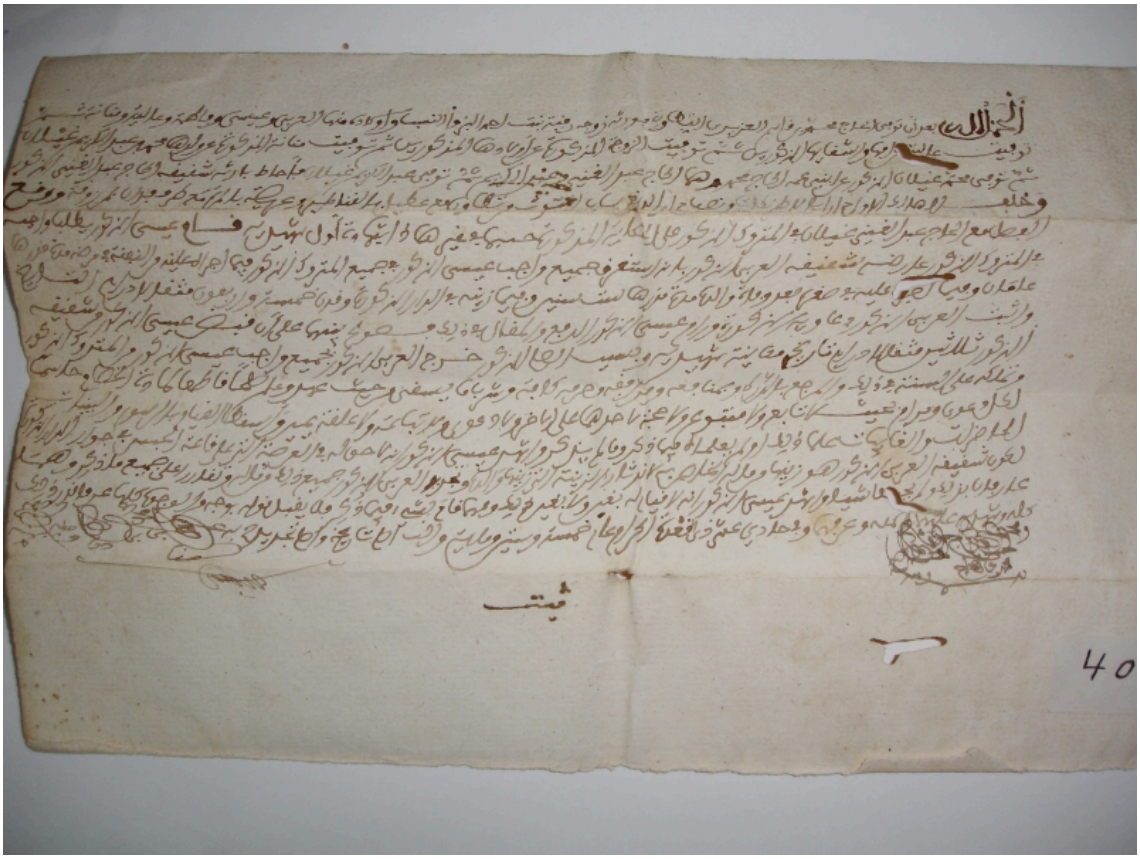
テトワンは，15 世紀末のグラナダ陥落後，キリスト教徒支配から逃れてきたアンダルス出身のムスリムが築いた都市であり，16 世紀以降も断続的にイベリア半島からモリスコ系移住者を受け入れてきた歴史を持つ。現在でもトレス（□urrīs）家のようにモリスコのもたらしたスペイン系の家名を伝える家族もある。また，スペインのアフリカ側の飛び地セウタに近く，19 世紀半ばのアフリカ戦争ではスペイン軍に一時占領され，20 世紀にはスペインによるモロッコ北部植民地支配の拠点がおかれた都市でもある。このようにジブラルタル海峡の北岸と歴史的に深いつながりを持ってきた都市テトワンの一角に，今回の用務先であるダーウード図書館は位置している。この図書館は公的なものではなく，20 世紀テトワンを代表する知識人ムハンマド・ダーウードが収集した史資料や蔵書をご息女のハスナー氏が整理したうえで，一般に公開している私的な図書館である。アラビア語や欧米諸語の刊本の他に，19 世紀から 20 世紀にかけての新聞・雑誌や写真，アラビア語手写本，そしてアラビア語の私契約文書・公文書などの貴重な史資料を多数保有している。図書館の現況については，すでに昨年 2 月と 7 月の調査報告書にも記したので，そちらも参照されたい。

ダーウード図書館との間には，すでに所蔵史資料の保存・デジタル化作業をおこなうことについて合意がなされている。それに基づいて今回は，デジタル化に必要な機材の購入・設営とテストをおこなった。機材については，OS 言語やサポートの問題を考えて基本的には現地購入とすることにした。ただ，カメラを固定するコピースタンドに関しては現地での入手が難しく，日本から持ち込むことにした。そのため，持ち運び可能なサイズ・重量のコピースタンドでなければならず，本格的なものは断念せざるをえなかったが，撮影作業自体に大きな支障はないであろう。パソコン，スキャナ，デジタルカメラなどは現地の

店舗を何箇所かまわって，今後の作業に必要十分と思われる機材を無事入手することができた。ダーウード図書館での機材の設営も特に大きなトラブルはなく，無事に完了した。

ダーウード図書館には，館長のハスナー・ダーウード氏以外には，清掃他の雑務をこなす臨時雇いの女性しかスタッフがいない。したがって，デジタル化作業を実施する新たな人員を確保しなければならないが，これについては写真撮影の実務経験を持つ現地の方にお願いできることになった。作業状況によっては，もう一人確保する必要もあるかもしれない。なお，8 月はバカンスの時期であるので，実際の稼動は 9 月からになるであろう。

機材設営を終えた後，いくつかの資料を撮影し試験的にデジタル化作業もしてみた。撮影にあたっては照明その他の細かい技術的な問題はあるものの，おおむね順調にデジタル化作業が進められそうである。以下の写真はその試験撮影の結果である（ヒジュラ暦 1165 年/西暦 1752 年付けの遺産分割文書）。



今後の予定としては，ダーウード図書館所蔵の史資料の中で特に貴重な私契約文書のデジタル化作業から始めたい。その後は，作業の進捗状況をにらみつつ他の史資料のデジタル化に進むことになろう。